

5 カラジッチ(ボスニア・セルブ共和国大統領) およびムラディッチ(同共和国総参謀長)の訴追経過 (p. 105～)

1996年6月ICTYは両名の起訴状を作成したうえ逮捕状を送達したが、裁判所に出頭しなかった。そこで、公判部は裁判所規則61に基づいて特別公開審理に入り、証人の証拠提出後、起訴状に記載された犯罪の確認決定がなされ、関係各国宛てに国際逮捕状が発せられたことは既に記したとおりである。

さらに Dayton 和平協定(1995年12月)によって「裁判所の出頭命令を拒んだ者は公職選出の資格を失う」ことが合意されたので、カラジッチは以後大統領職を退き、巧みに自らの行方を眩ましたことも既述した。

2008年7月カラジッチはベオグラードでセルビア当局に逮捕された。逮捕された時、彼は緑色の分厚い眼鏡をかけ、あごひげを長く伸ばし、白髪を後ろ手に束ねて変装し、自然療法医師ドラガン・ダビッチと自称していた。2014年秋ICTY 検察官は彼に終身刑を求刑したが、被告は無罪を主張した。2016年3月24日ICTY 上訴裁判所は彼に禁錮40年判決を言い渡した。

なお、カラジッチ被告は当時アメリカ合衆国国務長官オルブライト並びに同国特使ホールブルックとの間で「引退すれば訴追せず」との約束が厳然と存在すると主張し続けた。しかし、ICTYとしては、最重要犯罪や大物被告に対する判決実績を欠いたまま裁判を終結してしまうことは何としても容認し難いことなのである。政治的取引と裁判は本来別個に処理されるべきものであろう。

尚、ムラディッチの最終判決は2016年8月に言い渡される予定である。

(以上 / 小長谷)